



TITLE:

新年一月の天象

AUTHOR(S):

CITATION:

新年一月の天象. 星 1929, 1: 21-23

ISSUE DATE:

1929-12-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/168974>

RIGHT:

新年一月の天象

太 陽

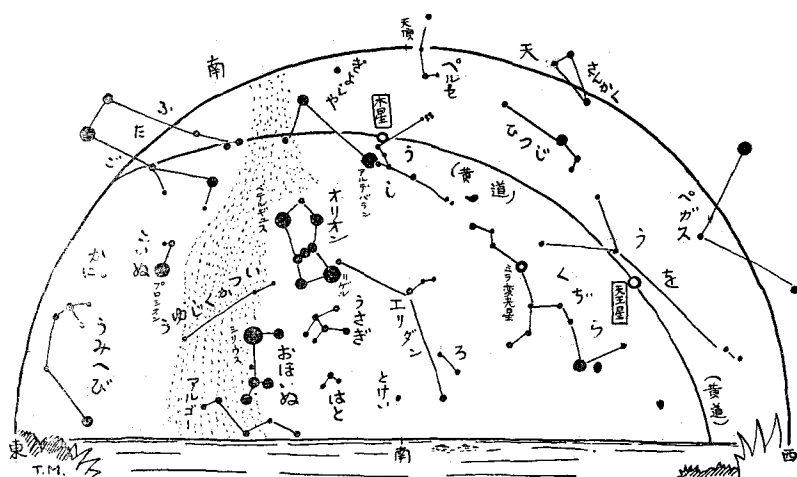
日	赤經	黄緯	視直徑	星座
1	18時45分07秒	南24度03分	32分35秒	いて
11	19時28分58秒	南21度53分	32分35秒	いて
21	20時11分51秒	南20度 0分	32分33秒	やぎ
31	20時53分29秒	南17度30分	32分31秒	やぎ

月始めは麻羯宮に在るが、二十一日から寶瓶宮に侵入する。三日に地球は近日點を通過する。其の時の太陽視直徑は三十二分三四・九八秒(前表の値は秒以下四捨五入)

月

月の相	時刻	視直徑	星座
上 弦	8日午後 0時11分	30分43秒	う ね
満 月	15日午前 7時21分	33分32秒	ふたご
下 弦	22日午前 1時07分	30分46秒	なこめ
新 月	30日午前 4時07分	29分25秒	や ぎ
遠地點通過	2日午前 0時48分	29分23秒	い て
近地點通過	15日午前 9時24分	33分32秒	か に
遠地點通過	29日午前 1時12分	29分23秒	い て

今年も相變らず、月の各遊星歴訪を御紹介しやう。月は元旦夜半に先づ遊星中で一番太陽に近い水星にお目にかかるのは縁起がよい。それから七日夕刻に天王星に追ひ付いて、その南側二度の所を通り過ぎる。十二日曉に木星と出合ひ、其の北側三度の所をすれ違ふ。十七日夕刻、海王星と出合つてその北側四度の所をすれ違ふ。そして二十七日朝、土星と出合ひ、二十八日夕刻、火星を追ひ越し、同日夜、水星を追ひ抜き、最後に二十九日夜、金星に追ひ付いて、今月の歴訪を終る。



遊 星 界

水 星 宵の星で、六日に東方最大離角 19 度となる。位置は「いて」座の東端で順行中である。併し十二日に留まると、其の後逆行に移り、ぐんぐん太陽に近づき、二十二日に内合となる。故に観望には六日前後がよく其の頃の光度は 0 等、視直径は七秒足らずである。

金 星 曉の星であるが、非常に太陽に近付いたので観望には適せぬ。位置は「いて」座の西端を順行中である。光度負三等半。視直径十秒足らず。

火 星 此れも曉の星であるが、太陽に近くて、殆んど観望出来ぬ。

木 星 宵の星、「うし」座主星（アルデバラン）の北寄り所の所を逆行中。今月中の最も観望に適する遊星である。月末三十一日には留まると、其の後は順行に移る。光度負二等。視直径四十二秒。

土 星 初め太陽に甚だ近いが、月末になる程、稍見得る様になる。月末の視直径は十四秒。光度一等。

天王星 宵の星「うを」座四十四番星に近い。光度六等。視直径三秒餘り。

海王星 夜半前東に登る。「しし」座主星（レグルス）に近い。光度約八等。視直径二秒半。

